

海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

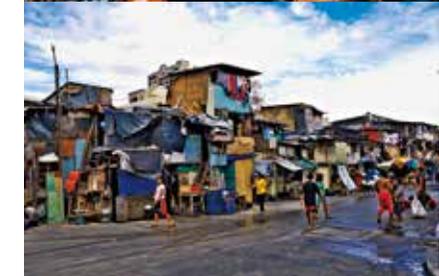
マニラ稲門会について

現在、マニラ稲門会の会員数は130人を超え、当地の大学同窓会では最大規模になっています。設立時期はあまりにも古く詳細は不明なのですが、少なくとも戦前に設立された伝統のある稲門会です。

活動内容は、年2回のゴルフ早慶戦、稲門会ゴルフコンペ、懇親会のほか、若手懇親会や高校別同窓会、さらに非公式でも稲門会メンバーが集まってはミニゴルフコンペや飲み会などを頻繁に行っています。会員の皆さまは気さくなばかりで、先輩後輩問わずとても仲が良く、活発に活動しています。名だたる企業の社員やご自身で会社を経営されているような方々ばかりで、幅広い人脈をつくることもできます。まだまだ隠れ校友の方もいらっしゃるようなので、その掘り起こしにも力を入れています。

フィリピンにお越しの予定がありましたら、ぜひマニラ稲門会にお問い合わせください。
中込一摩(1999年理工)

マニラの魅力



(上)金融経済の中心地、マカティ市街の夜景
(下)スラム街。貧富の格差は社会問題の一つ

危険「貧困」「汚い」など、マイナスなイメージを持たれがちなマニラですが、近年の発展は目覚ましく、再開発地区はまるでシンガポールのような様子。高層ビルが立ち並び、安全に歩き回れる地区も広がってきました。一方、東南アジアらしいローカル感も健在。スラム街やゴミ山などの問題もありますが、一步街の外に出るとイメージとのギャップに驚かされます。

フィリピンの最大の魅力は、フィリピン人のキャラクターです。フェイスブック大好き、セルフィー(自分自身の画像撮影)大好き、そして自分大好き! そのポジティブで親しみやすい、人懐っこい性格で日本人をとりこにします。また、フィリピンは大の親日国です。日本へのフィリピン人渡航者は2018年に50万人を突破し、東南アジア第2位。日本への関心がますます高まることで、日本とフィリピンの距離はこれからもっと縮まっていくことでしょう。

新村恭平(2006年教育)

会長メッセージ

2017年4月1日に東京からマニラに赴任、19年4月に前任の清水光彦会長から引き継ぎ、マニラ稲門会会長に就任しました。フィリピンへの異動と聞いたときは、正直あまり良い印象ではありませんでした。実際に生活してみると予想に反して、治安はちまたでいわれているほど悪いとは感じず、明るいフィリピン人や日本人(陽気なフィリピン人や気候に影響されてたいていの日本人は明るくなるように)に囲まれて、充実した毎日を送っています。

国民の約90パーセントがキリスト教徒のフィ

リピンでは、クリスマスシーズンが「ber month」の9月(September)から始まるといわれています。街の至る所に飾られるクリスマスツリーやイルミネーションは年を越した1月まで残っているほどで、さらにフィリピン人はこの季節にありったけのお金を使ってしまうようです。そんな中、われわれ日本人も一緒に楽しんでます。このような環境でわれらがマニラ稲門会は老若男女分け隔てなく、交流を深めています。

松永啓一(1988年法学)

会員からのメッセージ

卒業してから37年、学生時代はるくに大学にも行かず、スキーと夜遊びに興じた日々のせいで、校友会という集まりには全く興味が持てませんでした。2018年からマニラでローカル企業とのジョイントベンチャー準備に奔走しているものの、予想通り、時間がかかってイライラし始めたころ、風のうわさでどうもゴルフ早慶戦で早稲田が苦戦しているらしいと聞きました。ゴルフ大好き人間として、突然稲門会のメンバーになることを思い立ち、稲門会コンペ、新ユニフォームの作製、2回の早慶戦(2連勝中)、飲み会などに参加し、今までのブランクを取り戻すかのように稲門会を楽しんでいます。おかげさまで仕事のイライラも解消、ジョイントベンチャーも順調に進んできました。マニラ稲門会にはいい人が多く、気軽に集まれるところが何よりいいところだと思います。

加登啓康(1982年社会学)

は一生の財産です。「マニラ赴任時は治安の悪いマニラに行くのかと泣いて、帰任時は楽しいマニラを離れるのかと泣く」という名言はどうやら本当のようです。

松村 曜(1995年政経)

赴任した2015年に諸先輩から引き込まれ、正直嫌々引き受けた稲門会幹事。それから早5年が経過しようとしています。結果として、幹事を引き受けて良かったと思っています。公私の「私」の部分ではゴルフ早慶戦や懇親会、また早稲田ならではのマージャンなどで会員と懇親を深め、「公」の部分ではここで培った人脈がそのまま仕事にも生きています。ここで出会った人たちはどこに赴任してもまた会うと思います。やっぱり稲門会、すてきです。

石川洋史(2004年教育)

マニラ稲門会には2016年の着任後に入会しました。さまざまな業界、年代の方々が在籍し、定期的にゴルフや飲み会などで交流させていただいています。常夏のマニラですが、気温以上に熱い方が多く、毎度ゴルフコンペでは校歌の合唱で盛り上がります。初めて稲門会に入会しましたが、マニラ稲門会には気さくな方が多く、駐在生活の中でとても有意義な時間となっています。

長谷川 敦(2013年人科)

初の海外赴任が犯罪大国フィリピンでした。気を張って生活している中、知人からの誘いでマニラ稲門会の懇親会に参加しました。なぜかすぐにみんなと打ち解けられて常連になり、主な活動でもあるゴルフ早慶戦の勝利に貢献したく、メンバーと一緒にゴルフの練習をするようになりました。マニラ稲門会は同窓の先輩、後輩が集う、早稲田のサークル(社会人版)のような居心地の良さがあり、そのつながり



松永会長宅で行われた20年1月の新年会